

大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方検討会
第5回会合 議事概要

1 日 時：平成23年7月29日（金） 17時00分～18時00分

2 場 所：総務省8階第1特別会議室

3 出席者：

（構成員）桜井総合通信基盤局長、原口電気通信事業部長、相田構成員、服部構成員、有田構成員、飯塚構成員、入江構成員代理、喜多埜構成員、赤木構成員代理、杉山構成員、資宗構成員、田口構成員、立石構成員、富永構成員、永井構成員、平澤構成員、菅波構成員代理、富沢構成員代理、山村構成員、弓削構成員代理、三崎構成員代理
（総務省）平岡総務副大臣、森田総務大臣政務官、安藤総務課長、古市事業政策課長、竹内電波政策課長、斎藤データ通信課長、二宮料金サービス課長、野崎電気通信技術システム課長、鈴木消費者行政課長

4 模 様：

- 事務局から、中間取りまとめ案について資料5-2に基づき説明。
- 資料説明後、次のとおり、質疑・討議。

桜井座長） それでは定刻となりましたので、「大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会」第5回会合を始めたいと思います。本日の議事進行を務めます、座長の桜井でございます。よろしく願いいたします。本日は、前回検討会及びその後の各WGでの議論を整理・集約して中間取りまとめを行ってまいりたいと思っております。本日も活発な意見交換をお願いしたいと思っております。本日は平岡副大臣、森田政務官にご出席いただいておりますので、議事に先立ちまして、ご挨拶いただきたいと思います。平岡副大臣お願いいたします。

平岡副大臣） ただいまご紹介いただきました、総務副大臣の平岡でございます。本日はお忙しい中、そして暑い中、こうして大勢の方々にお集まりいただきましてありがとうございます。まず、今回の大震災で被災された方々、犠牲になられた方々にはお悔やみを申し上げますとともに、心からお見舞いを申し上げたいと思っております。通信事業者の方々においても大変な被害があったわけでございますし、また、被害があった地域の中において、いろいろ大変な作業もしていただいたというように思っております。4月末までにおおむね復旧作業は完了したというように聞いておりますが、そうした対応をしていただきましたことについては心より感謝を申し上げたいと思っております。さらに今は、少し状況が進展したなかで、多くの方が仮設住宅に入っておられるということで、仮設住宅における通信環境の整備ということについても皆様方のご協力をいただいていると思っておりますし、今後対応される部分もたくさんあるかと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。こうした活動を通じて、改めて、情報通信の重要性というものが国民の皆さんにも再認識されたと思っております。やはり通信インフラが広範囲にわたって被災し、通信サービスが利用できないという事態に対しては、なんとかこのようなことが防げるように、あるいは少しでも軽減できるようにということが言わ

れたと思いますし、逆に伝言サービスであるとかパケット通信を利用しての通信は、これまでの大きな災害時以上に大きな効果をもたらしたというような評価もあったということでございますので、是非改めて、国民生活、社会経済活動の基盤としての通信インフラの重要性、その安定的な提供確保の必要性というものについては再確認をして、さらにいっそう改善をされていくべきであると思っております。そういう中でこの検討会を総務省として立ち上げさせていただいたわけですが、民主党政権になってからは「政治主導」と言って、必ず政治家が前面に出てリーダーシップをとっていたというような気もしますが、ここは、技術的な検討、専門的な検討が継続的に必要であり、政治的なリーダーシップというよりは技術性、専門性を踏まえた議論をしっかりとさせていただきたいということで、総合通信基盤局長を座長とする形で、この検討会を立ち上げさせていただきました。政治的なリーダーシップが必要な部分については、しっかりと私と森田大臣政務官が果たしてまいりますので、そういう点がありましたら是非この場でも出していただいて、より良い通信インフラの確立を目指していきたいと思っております。本日は先ほど座長からもありましたように、これまでの皆さん方の検討結果を中間取りまとめという形で整理をしていただくということでありまして、すぐに対応できること、対応すべきことについては、我々も対応していきたいと思っておりますし、皆さん方も対応していただきたいと思っておりますし、少し中長期的に取り組んでいかなければならないことについては、中間取りまとめの後に最終的なとりまとめという形で整理をしていただいて、しっかりと対応していただいて、国民の皆さんが期待する通信インフラの確立を目指していただきたいというように思っております。どうか皆さん方の真摯な御議論、御協議をお願い申し上げまして私の御挨拶とさせていただきます。

桜井座長) 平岡副大臣ありがとうございました。それでは、森田政務官お願いいたします。

森田政務官) 御紹介いただきました、大臣政務官の森田でございます。私は国民新党から来ていますのであまり「政治主導」という言葉を使ったことがなかったのですが、おそらく刃物というものはいつも振り回すものではなくて、抜くべき時に抜くものだろうと思っておりますので、ここぞというところでリーダーシップがとればということでは思っております。

本日は皆様お忙しいところお集まりいただきまして、そして本日の中間とりまとめまでご議論を進めていただきましたことに大変感謝しております。言わずもがなですが、固定電話網であれ通信であれ、携帯であれ、通信インフラというものは国民の経済活動に必要不可欠なインフラであると思っております。私も3月11日は能登半島に行っておりまして、そのときに震災が起きました。発生後、すぐに本省と連絡を取らねばならない、戻らねばならないと思ったのですが、御承知のような通信状態でありましたのですが、ただ、その中でも、ショートメール1本通じることがいかに心強いということを感じ知ったわけでありまして。通信インフラ、特に災害の緊急時には、国民にとってはかけがえのない情報発信の手段であります。同時に国家安全保障を含めた国家機能の中核でもありますので、今回の震災の体験をしっかりと後世、そして近い未来の国家のために使っていく、その中で生命・身体を守っていくということに使っていくべきだと思っております。同時に国民から見て身近な医療、行政というものにおいても、

今回の災害では大変な打撃を受けたわけでありますが、結果として、情報がネットワークの中にあつたか否か、バックアップがあつたか否かが機能としての生死を分けたわけですので、こういうこともしっかりと重く考えていく必要があるのだと思っております。それをやるには国家として、政府として非常に大きな事業をこれからやるのだという決意も必要であると思っております。

構成員の皆様におかれましては、本日の中間とりまとめで活発な御議論を賜りたいということ、そして我々が官民一体となつて物事を進めていけるように御指導賜りたいと思っております。

桜井座長) 森田政務官ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。始めに事務局から中間取りまとめ(案)について説明させていただきます。

<事務局より資料5-1、資料5-2について説明>

桜井座長) それではただいまの説明について、検討や質疑応答を行いたいと思います。挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。

弓削構成員代理) よろしいでしょうか。短い時間の中で、かなりインセンティブにまとめていただいて大変感謝しておりますけれども、いくつかコメントをさせていただきたいと思っております。

まず1つ目は、前回か前々回に申し上げたかと思っておりますが、ユーザとしての視点という意味では、若干まだ不足している部分があるのではないかと思います。そういったものをここに盛り込めということではないのですが、例えば輻輳の議論についても、輻輳規制のパーセンテージという形で出ておりますけれども、結果としてのユーザの使い勝手というものがあるということは11ページには若干は書いてありますが、そのような部分をもう少し分析する必要があるのではないかと思います。それから私どもは現地の声を聞きたいということで、最近、実は社員を現地に派遣して聞き取りも行ったのですが、やはり短時間でも良いから何が何でも安否確認をしたいという要求が非常に強いようですし、実際には災害伝言ダイヤルは使い方がよくわからないということで使われていないケースも多いということで、そのようなところを我々としてももう少し真摯に受け止めていく必要があると思っております。それから、全体のプロセスの中で、原因の分析というところが若干抜けているのではないかなということで、設備の増強とかそういったところに議論が飛んでしまっているような部分もありまして、それは最終的には必要かもしれないですけれども、やはり疎通の確保とかメールの遅延防止とか、そういったいろいろな目的を実現するという意味で何が本当に効率的で一番良いのかといったことも検討して、ここにいろいろと挙げていただいている対策以外にも、そのような対策で代替できるといったことも可能性としては検討すべきだと思います。

あともう1つは、研究開発的なものがかなり書いてありまして、それは直ちに着手すべきであるとか、速やかに着手すべきであるというように書いてあるのですが、確かに時間がかかるので直ちにはやらなければいけないと思うのですが、直ちに結果が出るようなものでもないわけでありまして、そのあたり、あつてはいけないことではありますけれども、明日とか明後日に災害が起こった時にどうするのか、そこまでいかなくても

近々のところに対してどのようにアウトプットを出していくかということは検討する必要があるのではないかと思います。それから、若干各論に入りますけれども、概要の2ページ目の災害伝言板の連携のところですが、この中でもウェブと携帯との連携などについては本文中にも書いてありますが、そのようなところはすぐできるので、できるだけ早く進めていただきたいということと、場合によってはやはり国の関与というのにも必要なのかなと思います。それから概要の4ページのところネットワーク共用・連携の在り方といったことがございまして、これから検討していくのだと思いますが、本文の方を見ますと、若干「事業者もいる」とか「意見が示されている」など表現が均一でなくて、読んだ限りでは若干ネガティブな感じもしますので、ニュートラルに検討していくのだということと、先程申し上げましたとおりユーザからの要望はかなり強いといったことをぜひ理解していただければと思います。

それから最後ですが、アクションプランの中で、やはり今回の震災の中で事業者の中でも燃料の確保とか情報の一元化とか消防関係の問題とか国の方をお願いしたいということで困ったことがいろいろとございまして、「今後の検討」ということでは入っていると思いますけれども、ぜひ「速やかに実現する」という箇所に入れていただけたらと思います。

桜井座長) どうもありがとうございました。この取りまとめ案で指摘されていなくてこれからやるべきこと、あるいは指摘されていることの重要性という御指摘だったと思います。燃料の確保について、今後検討となっていますが、これは全体として本検討会の最終取りまとめに向けて今後検討、ということでありまして、最後のお話になるかもしれませんが、この取りまとめを受けて具体的な関係機関との調整をスタートさせるというイメージでございまして。

弓削構成員代理) ぜひ早めにお願ひできればと思います。

入江構成員代理) ドコモの入江でございまして。私も短期間の中で関係者の方々の努力でおまとめいただいたということに大変敬意を表したいと思っております。今、弓削構成員代理から少しコメントがありましたけれども、私自身もWGに出席していろいろなデータを御提供させていただいて、十分かどうかは別にして御説明させていただいていたところですが、先ほども少しお話が出ましたように携帯電話の音声で連絡をとりたいというニーズが大変高かったというのは、今日の参考資料でも事務局の方々がお示しいただいておりますし、私たちの調査でもそうっております。もちろん、メールやその他の手段でということもありますが、やはり肉声で御連絡をとりたいということがニーズとしては高いのだろうというところがございまして。今日の御説明があった2ページ目のところで、やはり分析もしてみましたところ、加入者交換機の処理がやはりネックになってしまっていて、どうしても規制をかけざるを得なかったというところもございまして。このあたりは御指摘ありますようにどうやって設計を見直すのかということも含めて考えていきたいと思っております。一方、冒頭に副大臣からコメントがございましたけれども、パケットの有用性を改めて認識したというところで、私どもの提案、計画として、音声で肉声を伝えたいというお客様のニーズと、パケットの有用性というのをかんがみて、音声メッセージをファイル化してお伝えするというところも今、一生懸命開発して実現をしたいということで、このあたりの情報もぜひ提供させていただ

ければと思っております。一方で加入者回線の交換機が処理ネックということで残念ながら規制をかけざるをえなかったというのは事実でございますし、これは他事業者様もおそらくそうだと思いますけれども、このあたり通話の時間制限、あるいは品質を一定程度落とした通話という御提案も意味があるとは認識はしておりますが、このあたりの交換機の処理ネックとのバランスをどのようにとっていくかというのも今後もやはり課題だと思いますので、このあたりもぜひ私どもとしても検討会を含めてお話ができればと思っております。一方で、東北の被災地で大ゾーン方式で薄く広く基地局で措置をさせていただいた場合は、どちらかというとも基地局の無線のリソースがネックになっているわけですし、このあたりは交換機の処理ネックにならないわけですので、この御提案というのは十分に生かせる分野だと思います。このあたりは場合分けを少し丁寧にして今後まとめていくと、大変意味のある結論が出るのではないかと思います。多少感想を含めてですけれども、大変努力してまとめていただいて、ありがとうございました。

赤木構成員代理) KDDIの赤木でございます。まず大変短い間でまとめられた事務局の方々に改めて敬意を表します。ドコモさんやソフトバンクさんからも御指摘がありましたように、音声の話というのは我々も十分に認識しております。したがって入江構成員代理と全く同じことを申し上げるのは割愛させていただきますけれども、特にやはり音声として、ドコモさんが先行されているかと思いますが、災害伝言板サービスや音声メール添付といったようなことも含めてお客様に対して啓蒙をしていかなければいけない部分と、合わせてニーズに対してどう対応できるのか、いかに使いやすい環境を整えるのかといったことも含めて、前広に今後検討を進めていただければということで、服部構成員、よろしく申し上げます。

立石構成員) 先ほど弓削構成員代理から発言があったように、私もユーザの部分が少し少ないのではないかと思います。ここで言うべきではないのかもしれませんが、この観点からはなかなかほかで言うところもないと思いますので、もう少し強めに書いていただいても良いのではないかと思います。それと、やはり今回の震災を受けて、私の地元でもこのような検討を始めているのですが、何をやってよいか分からないという部分も結構大きくて、そういう意味で、書きぶりだけの問題なのかもしれませんが、「地方の自治体が参考にするときに」といった目次程度のものでもないと取り組みやすいのかなと思います。実際私も地元の情報基盤のこういったWGをやっているのですが、実際にもそういった話が何回かあって、特に西日本では東日本に比べてそういった意識が少ないと思うので、西日本でやっていただけたらと思います。その中で、WGの時にも申し上げたと思うのですが、燃料確保のところで、自治体などが取り組もうと思えば今すぐにでも取り組めることがあるので、そういったところを重点的にしたらよいと思います。技術開発なども大事だと思いますけれども、少々動けばできるようなこともございますので、そういう視点を中心に書いていただけたらと思います。

桜井座長) どうもありがとうございました。自治体向けにわかりやすくですとか、あるいは利用者向けにわかりやすくですとか、そういう話については当然出てくるだろうと思いますが、これからもっと具体的な、例えばこれからパンフレットを作るといったことも検討してまいりたいと思います。

富沢構成員代理) マイクロソフトの富沢です。せっかく今日、副大臣、政務官がいらっ

しゃっていただいておりますので、申し上げます。2点ありまして、1つ目は今後これらを実装していくような形になると、投資をしていくわけなのですが、投資をしていく際に、実際投資をして今やらなくてはならないのか、投資をした結果、実際にどういうものが速やかに効果として現れるのかということを含めた形で、優先順位をつけて投資をしていただければと思います。それが1点目です。

2点目は、今後これをどこまで公開するのかということなのですが、基本的には公開ということに賛成ではあるのですが、あまり細かいところまで公開するとやぶ蛇になってしまう可能性もあるかというように懸念しています。例えば、ミラーサイトの件で、ミラーサイトはすごく良いことだと思うのですが、このようなことが行われるということが事前に分かっていると、仮によこしまな心があれば、今からフィッシングサイトのようなものを立ち上げておいて、地震があったときにそれを出してしまうということも考えられます。それに対する対抗策はもちろんあるのですが、ナショナルセキュリティと言いますか、そういうところも含めた形で、公開の情報を考えていただくのがよろしいのではないかという、以上2点です。

桜井座長) ありがとうございます。優先順位の話、それからナショナルセキュリティ上の留意点をご指摘いただきました。ありがとうございます。

平岡副大臣) 投資の優先順位と言われていましたね。それは国による投資ですか。

富沢構成員代理) そうです。予算を使って何かをするときに、例えば、悪い例かもしれませんが、プレスだけで見ると、原子力のロボットの開発に何十億かかっているということですが、結果的に使われなかったところがあります。私がここで申し上げているのは研究をするなどということではなくて、研究するのはいいのですが、研究した結果を被害が実際に発生した時に活かせるようなことも含めた形で、優先順位を決定するべきではなかろうかというようなことです。

三崎構成員代理) IBMの三崎でございます。3点ございます。まず1点。震災直後の安否の確認は、被災者あるいはそれに関連する企業の数多くにとって緊急の問題だと思います。現状で言うところの中でも議論されてきましたように、各社の伝言ダイヤルはそれぞれバラバラであるとか、あるいは民間による例えばGoogleのパーソンファインダーとかNPOが立ち上げた安否確認システムがバラバラであるとかいうことがありますし、非常に情報リテラシーの低い高齢者の方々はどうすればいいのかという問題があるかと思えます。例えば伝言ダイヤルでいうと、この中では各事業者間の緊急時の協力体制とか言われていると思いますが、音声は音声、インターネット上のデータはデータということではなく、やはり音声情報、伝言ダイヤルの情報がきちんとインターネット上の安否確認システムに反映されるであるとか、あるいは情報リテラシーが低い人が伝言ダイヤルみたいなところに連絡すればインターネットの情報が音声で検索できるであるとか、そういう部分は一部、事業者間というよりもやはり技術開発が必要な部分ではないかと思えます。

2点目は、今回ツイッターなどのソーシャルネットワークが非常に活用されたということはいいいのですが、良い面はいろいろありました。しかし、一部悪い面として風評被害につながる、従来の口コミとは違って伝搬力が強いので、悪い噂がどんどん伝搬してしまったということがあります。そういうものを止めるとか情報統制する方向ではなく

て、弊社の経験で言うと、WGでも紹介させていただきましたが、ソーシャルネットワーク上のインターネットに流通する情報を分析して、変な情報が動いている、噂が流れている、風評被害が出ているということを早く国なり関係機関なりが検知をして、警告を出していく、周知をしていく、早く国民に知らせていくという仕組みが必要だと思います。

3点目。クラウドサービスの活用ということで、例えば自治体クラウドのいっそうの推進ということは意味があるかと思いますが、この震災の後、どういうことを民間企業が考えているかと言いますと、例えば大手の企業ですときちんとバックアップセンターを持たれていますので、東京に主のセンターがあれば大阪にセンターがあるとか、東京近郊のバックアップセンターはここでは危ないのもっと西に持って行かなくてはならないとか、そういったことを検討されているわけです。ただ、中堅中小企業はそこまで立派なバックアップセンターを持ってないので、今一番関心が高いのは非常時のクラウドサービスによるバックアップです。例えば自治体システムをすぐにクラウド化ということもあるかもしれませんが、現状、データの二重化をクラウドサービスを使ってできる、非常時の自治体システムが被災した場合でもクラウドサービスのバックアップで短時間で立ち上げができるということを、民間はもう普通に考えておりますので、自治体もそういうことを検討するガイドラインなり、民間の先進的な事例を検討してもらい意味があるかと思っております。以上です。

桜井座長) どうもありがとうございました。

飯塚構成員) NECビッグロブの飯塚です。私が申し上げるのは少し一般論になりますが、今後の進め方についてのことです。具体的な例として引用したい項目を2つ申し上げますと、資料5-2の7ページ「ネットワークの対災害性向上のための研究開発」といった項目、あるいは8ページ一番下にある「インターネットのネットワーク構築の在り方」です。これだけではないのですが、せっかく重要なことを皆さんでまとめたいただいたものを、今後現実化・具体化するためには、次に申し上げるような進め方の一般論が、一方では本音として大事ではないかということをお願いしたいと思います。今申し上げたような2つの項目は、私からすると、場合によっては改めて日本の情報通信ネットワークの基本構想の再構築、新しいネットワークアーキテクチャの発想くらいのことにも必要になるのではないかと思います。ただそれを現実たらしめるためには、資料5-1の本文の方、おそらくそれは今速やかにというわけにもなかなかいかなくて、本文の38ページ以降にお書きいただいている「引き続き検討を深める」という方にどうしても入ると思うのですが、その進め方について、速やかに進める方は国がやるべきこととか事業者がやるべきことというように明確にまとめていただいておりますが、前回も申し上げたように、おそらく引き続き進める事項も、国の強力なリーダーシップをもって進めていただかないと、先ほど例として挙げたような項目は実際には進まないと思います。理由は簡単です。残念ながら、日本の競争環境あるいはいわゆるインフラ環境、これは世界的な現象でもあるのですが、ネットワークインフラを維持するにあたって、ある意味では、産業的なバランスもとれてきた形で行われてきました。しかし、常に議論になってきたのが、インフラただ乗り論です。この問題にそろそろメスを入れていただかないと、民間がおそらく1事業者で押し進めるということはほとんどできないと思

います。したがって、国の強力なリーダーシップと申し上げているわけです。そのためには、前々回申し上げたと思いますが、FCCが去年の暮れに新しい考え方を出したりもしています。もしかしたらこの検討会の範疇を超えるかもしれないのですが、現実的にはそのようなことも、例えば、具体的な例で言うと費用負担の公平性、真の公性の復権、そういったことの視点をふまえた現実論を今後さらに盛り込んでいかないと、せっかくこれだけいい案を作っても、実現するということにはならない恐れがあると思います。僭越なことを申し上げますと、そういう意味で、昨今は改めて公共性についての考え直しのような議論がよく行われるようになってきていると思います。いずれはこれを進めるうえで、そのような視点も盛り込んだ具体策を、特に「引き続き検討を深める」とされた項目をさらに深めるうえで、そのようなポリシーを持って議論を進めていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

桜井座長) 今後最終取りまとめに向けて議論を深める事項、引き続き検討すべき事項については、これはみなさんともご相談ではありますが、例えば次回くらいに、具体的にどのような形で進めるのかといったことについても少し議論いただいて、共通認識を持てればと思っています。

喜多埜構成員) 各論になってしまいますが、資料5-1の28ページに、おそらく表記ミスだと思うのですが、ちょうど真ん中の所にある●で「行政機関等により提供される」という文章があって、その●の最後の所だけ「行政機関」になってしまっています。おそらく「等」が抜けていると思うので、入れていただきたくて、実はこれ意味は非常に大きくて、行政機関でなくても今回のケースで言えば東電さんみたいな公共性の高い所の情報提供の在り方も含むということだと認識していますので、それを確認したかったというのが1点であります。それから皆さんのご意見の中にもツイッターの話であるとか様々ありましたが、ヤフーとしてやったこと、前にも少しご説明しましたが、避難所の情報であるとか亡くなられた方の情報を一生懸命様々な所と御連絡をとらせていただいて結局最終的には人力でやりましたということなのですが、同じ28ページの一番下の注釈の所に情報提供はPDFのみならずHTML形式であるとか、それからAPIというようなことが書かれていて、周知が行われたという風には書いてあるのですが、現実としてはその形になっている所は全然ありませんでした。一生懸命社員かき集めて手でやりましたというのが現実だったので、ここをもう少し強めに書いていただくか「今後は義務ですよ」くらいにさせていただく、飯塚構成員も今おっしゃられたように国が引っ張っていくという部分を強めに出していただかないとまた同じ事が起こってしまうのではないかと思いますので、この注釈で書くのか本文で書くのかは分かりませんが工夫をしていただければと思います。以上です。

桜井座長) 28ページの「等」はおっしゃるとおりだと思います。それから28ページの注は周知が行われたからそれで十分ですという趣旨ではなく、行われているけれども引き続き検討することが必要であるということだと思います。

喜多埜構成員) そうですね。よろしく願いします。

桜井座長) 研究開発についていくつか御指摘がありましたけれども、NICTの富永さん何かご発言ありますか。

富永構成員) 先ほど飯塚さんのお話の中でアーキテクチャの話が出ましたけれども、私

どもでは、災害に強い信頼性の高いネットワークの構築ということで、今のネットワークではトラフィックが爆発的に増大するのをどうするのか、そのトラフィックの増大に応じて電力消費が非常に大きくなるのをどうするのかという大きな課題がある中で、5年先、10年先のネットワークの在り方について研究開発しております。今この時点ではまだ民間様のみでは次の世代のネットワークにはなかなか取り組みづらいということもあって、私どもを中心に、事業者さん、メーカーさんに参画いただき研究開発を推進していますが、今回のこの議論を通じまして、まさにそういったものが重要だということが再認識されている状況でございます。ちょうど私ども、第3期中期計画ということで5年間の計画の研究開発を開始しました。この中で、新時代のネットワークの研究開発を力を入れて推進していくということでございます。

桜井座長) ベンダーの立場から資宗さん何かございますか。

資宗構成員) 特に私どもとしては今回のこういうまとめ方が、最初は非常に幅広でこの短い期間でとっていたのですが、しっかりとまとめていただいてありがたいと思います。そうすると我々もこれから先は、もう少し、皆様もおっしゃっていましたが、これを受け止めるサイドが「なるほど、こういう課題もあるのか」とか「こういうことをこれからやってくれるんだ」とか「しかし、そういうことをやるについてはこういうコストもかかるんだ」といったようなことを、網羅的である必要は必ずしもないとは思いますが、ポイントに絞って、「例えばこれは非常に効果的だからこういう風にやっていたらいいんじゃないか」という風に、一例を挙げるのは適当かどうかかわからないですが、例えば衛星電話があるポイントにあると非常に有効だと仮にそうすると「しかしコストは誰が持つんだ」という話になります。そういった具体的ないくつかのポイントに絞って今回の発表をしていただくと非常にインパクトもあるし、今こういう時代でございますから受け取るサイドも納得していただけるのではないかとということで、見せ方が非常に大事でございますので、これからの話でございますけれども、せっかくここまでまとめていただいたのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

桜井座長) 大変大事なポイントだと思います。引き続き検討してまいりたいと思ひます。それでは、先ほど「等」の所がありましたので、修正をさせていただきたいと思ひますが、これで中間取りまとめとしてはよろしいでしょうか。

弓削構成員代理) 1つだけよろしいでしょうか、資料5-1の38ページの一番上なのですが、これ前ページからつながっているのですが、「利用者が中心となり取り組むべき事項」とあるのですが、この書き方というか表現は乱暴かなという感じがしまして、利用者はどうやってこれを取り組ませるのかなというところがもう少しあった方が丁寧かなという気がします。

桜井座長) 要約の仕方がもう少し丁寧にという趣旨でしょうか。

弓削構成員代理) 要約ではなく本文がこれだけだと思うのですが、38ページです。

桜井座長) ご趣旨は、具体的にどうすればいいのかがはっきりしていないということなのか、あるいは利用者に押しつけすぎの表現であるということなのではないでしょうか。

弓削構成員代理) 利用者にとこれを自分でやりなさいというのは少し無理があるのかという気がします。そこに対してどういう風にプロモーションをかけるかだと思います。

桜井座長) 見出しが「利用者が中心となって取り組むべき事項」とあるのが確かに言葉

を選ばないで失礼にあたるみたいな感じがするのは御指摘のとおりだと思います。

弓削構成員代理) 実効を上げるにはどうすればいいのかなというところが気になりました。

桜井座長) わかりました。引き取らせていただいて整理をした上で、各構成員にまたお話ししたいと思います。その他よろしいでしょうか。それでは今の点について留保させていただいて中間取りまとめとさせていただきたいと思います。両WGの主査からコメントはございますでしょうか。

服部構成員) 皆さんの御意見を踏まえて決めたらいいと思います。やはりスピード感は非常に大切だと思いますので優先順位、何を急ぐか明確にしながら対応していただければと思います。

相田構成員) 直前のWGの時にも申し上げたのですが、お手元の資料に名簿もございますが、現在のWGのメンバーはいわゆるプロバイダー側に偏っているということで、先ほど弓削構成員代理からも利用者視点という話がありましたし、先ほどありました国・自治体等との間での協力・取組ということで自治体側の代表の方というようなことなどがございます。どこにどう声をおかけしたらいいのかも今の段階では必ずしもわかっていませんが、メンバー構成等も少し見直しを含めた上で、今日いただいた御意見等も参考に検討を進めて参りたいと思っております。

桜井座長) どうもありがとうございます。最後に平岡副大臣お願いいたします。

平岡副大臣) 大変熱心な御議論をありがとうございます。そもそもこの検討会を立ち上げようということについては、私も言い出した人間の一人になっているのですが、そのときはせつかく立ち上げるのだから検討会で、構想を大きく持って緊急にやることから将来どうしたらいいかということまで全部ひっくるめて議論したらいいのではないかという学生的な青臭い議論を踏まえてテーマを設定させていただいたところがあるのですが、ただやはり会議ばかりやっていて何か具体的な成果が何も見られないのでは本来の趣旨と違うのだらうと思います。災害というのはいつ起こるかわからない、逆にいえばいつ起きてもおかしくないということでもありますので、できることはスピード感を持ってしっかりとやるということも大事だと思いますので、中間取りまとめの中ですぐにできるということについては今からでも、既に取り組んだこともありますししっかりと取り組んでいただきたいと思います。中長期的に取り組むようなことは、先ほど議論の中でもありましたが、網羅的にやるというよりはこんなこともあり、あんなこともある、というようなことの情報の共有をさせていただいて、それぞれの事業者の皆さんの中でも興味があるところについてはしっかりと研究をし、そして勉強していただいで取り組んでいただくということにつながっていけばいいのではないかと思います。いずれにしても今回中間取りまとめということでございますので、また最終報告に向けて皆さんから様々な御意見もいただきながら取りまとめていくのは総務省の1つの役割だと思っておりますので、引き続き御協力お願い申し上げます。ありがとうございます。

桜井座長) 森田政務官お願いいたします。

森田政務官) 中間取りまとめが形となりまして、心から感謝申し上げます。今回の災害は、地震と津波と、原発はさておきまして非常に大変だったのですが、今も台風といえますか前線の影響で新潟県の三条市は、この会が始まる直前まで大雨で3万人の避難命

令が出ているということですから、台風や洪水あるいは地震とセットになりそうな火山の噴火も、やはり様々なバリエーションを想定する必要があるのではないかと思います。最後の方でユーザの目線あるいは国民の協力の在り方も話題に上ったのですが、国家あるいは業界の方々が努力をされることが非常に大事なことです、最終的には平時ではなく有事であるという感覚に立って、国民の方々の協力がなければ決して成就することはないと思います。そういった意味で自治体が、避難訓練や広報の不要不急の推進が必要であるということはどうやって伝えていくかということも課題になると思いますので、考えなければならぬと思っております。どうもありがとうございます。

桜井座長) どうもありがとうございます。それでは以上で本日の会合を終了したいと思います。次回以降の進め方、日程につきましては、また決まり次第御連絡をさせていただきます。どうもありがとうございました。

以上